資　料　１

『まちづくりからみた文化ボランティア活動』

㈱まちづくり計画研究所
福岡県地域づくりｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ／福岡県安全・安心まちづくりｱﾄﾞﾊﾞｲｻﾞｰ　今泉 重敏

１. テーマコミュニティとエリア（地域）コミュニティ

○教育、文化、環境、福祉などのテーマに基づくつながり
○自治会、行政区、小学校区、中学校区などのエリア内のつながり

２. 地域を取り巻く世の中の動き

○市町村合併の進展
○人口減少時代・少子高齢社会の到来
○安心・安全な地域社会への期待
○ＮＰＯ（特定非営利活動法人）の進出
○行政情報の公開と個人情報の保護
○健康に対する国民意識の高まり
○行政の財政危機
○中心市街地の衰退
○団塊の世代の退職
○生涯学習社会の到来
○高学歴化と女性の社会進出
○協働のまちづくりの推進　ほか

３. 地域が抱える主な課題

○少子高齢化による地域の活力低下
○人口減少
○地域コミュニティの希薄化
○安全・安心な地域社会の形成
○環境問題への対応
○地域資源を活かした個性ある地域づくり
○各種地域づくり団体等の連携　ほか

４. 地域（小中学校区等のエリア）主体、行政との協働によるまちづくりに向けて

○何でも行政がやる時代は終わった
○住民と行政との役割分担
○住民：主体となってやれる分、責任も生じる

５. 住みよいまちづくりに向けて

○地区（行政区・校区）単位のまちづくりの動き（どちらかといえば、これまで行政は、まちづくりについては NPO 等との協働が主であった）

６. 地区単位のまちづくりのポント

○まちづくりの２・６・２の法則
　理解を示し行動する２割、じっと状況を見つめる６割、足を引っ張る２割
○なぜ校区単位のまちづくりに取り組むべきか、十分役員などが理解した上で取り組む
○しっかりとした事務局づくり
○急がず、住民のまちづくりに対する熟度を高めながら取り組む。
○住民の趣味や特技をまちづくりに活かすこと。「一人一役のまちづくり」
○校区の憲法である「まちづくり構想」「まちづくり計画」を策定すること。
○情報を共有し、みんなの理解を深めるために社会実験を行うこと（小さな成功事例づくり）
○場合には外部から見てもらうことも大切。よそ者の力。

資　料　２

〇行政職員も市民の一人。５時から以降は市民の一人として校区まちづくりのメンバーとして活躍すること。

7. まちづくりには文化ボランティアが求められている

これからのまちづくりは、趣味・特技や生涯学習等で習ったことを活かして、自分たちの地域がさらに住みよくなるようにしていく工夫が必要。文化ボランティアの豊富な知識・技術・ネットワークの活用・・・「知る（学ぶ）」→「教える」→「活かす」

例）まちまるごと文化祭

〇人生は「25 億秒」「27 億秒」

◆あなたは平均余命まで後何秒？・・男：79.59 歳　女：86.44 歳 H21ﾃﾞｰﾀ)

あの世に行くとき「しまった」と言わないで良いように今を楽しく、活き活き生きよう！・・・生まれた時に平均余命が設定された時計を持っているつもりで前向きに生きよう！・・・**生きてて良かった！密度が高い生活を送ろう！**

8. まちづくりオーケストラ（エリア型とテーマ型の連携）

〇性別・年齢・居住年数・肩書き・活動分野に関係なく、地域が抱える課題をみんなで解決し、明るい元気なまちを創ろう！

9. 校区単位のまちづくり協議会や各種地域づくり団体が抱える主要課題

①活動資金の確保　②人材の確保（高齢化による）
③情報の受発信不足（活動のＰＲ不足）　④ノウハウ不足
⑤活動のマンネリ化による意識低下　⑥組織内のｷﾞｸｼｬｸした人間関係
⑦住民のまちづくりに対する意識が低い
⑧その他（行政とうまくいっていないなど）

＊こうした課題を解決するために、いろんな団体や地域の人と交流し、信頼関係を深めて連携しよう！・・・但し、ルールやマナーを守りながら・・

10. 行政への期待

11. その他